

各 位

平成30年8月1日  
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3  
電話 023-634-4120

## 山形市野草園からのお知らせ



「七草の庭」に咲くキキョウ (昨年8月上旬に撮影)

キキョウ「桔梗」(キキョウ科)

キキョウは、日当たりのよい乾いた野原に生える多年草です。葉は長卵形で先は尖り、ふちには鋸歯があります。花は茎の上部につき、青紫色の鐘形で5つに分かれます。根は太く黄白色をしており、薬用として利用されています。八重咲きや白花などの園芸品種を含めて観賞用として家庭でも広く栽培されていますが、野生種は絶滅危惧種になっています。

秋を代表する花として親しまれているキキョウ、実際には夏から初秋までが開花時期です。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。

### 万葉集に思いをはせ、咲き始めた秋の山野草を楽しむ

秋の七草は、山上憶良(やまのうえのおくら)が万葉集の中で詠んだのがはじまりです。

「秋の野に 咲きたる花を 指折り(およびをり) かき数ふれば 七種(ななくさ)の花」

「萩の花 尾花 葛花 撫子(なでしこ)の花 女郎花(おみなえし) また藤袴(ふじばかま) 朝貌(あさがお)の花」

萩(ハギ) 尾花(ススキ) 葛花(クズ) 撫子(ナデシコ) 女郎花(オミナエシ) 藤袴(フジバカマ) 朝貌(キキョウ)

例年になく暑い夏。そんな中、野草園では、夏の花に混じり秋の七草の花々も咲き始めています。遠く万葉の世界に思いをはせながら秋の七草に目を向けたり、美しい山野草を眺めてみたりするのも心の安らぎになるのではないのでしょうか。ぜひ野草園に足をお運び下さい。

【8月中の開園時間】 9:00~18:00 尚、入園は17:00まで

## 8月のイベント予定

- ◆【絶滅危惧植物パネル展】 7/14(土)～8/19(日) 9:00～18:00
  - 内容 絶滅が危惧されている植物の写真パネルを展示
  - 場所 野草園自然学習センター内 ○費用 無料(入園料別)
- ◆【工作コーナー】
  - 日時 7/28(土)～8/19(日) 10:00～16:00 連日開設
  - 場所 自然学習センターピロティ
  - 内容 木の枝など自然の材料や道具を使って自由に木工ができるコーナーを設置
- ◆【ガイドウォーキング】
  - 日時 8/5(日)、11(土:山の日)、12(日)、19(日)、26(日)  
①10:00～11:00 ②11:00～12:00 ③13:00～14:00 ④14:00～15:00
  - 内容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込みは不要、その場で参加できます。見どころの花の場所に案内し、説明をします。
  - 場所 野草園内全域 ○参加費 無料(入園料別)
- ◆【木工工作教室】
  - 日時 8/5(日)、8/12(日) 10:00～12:00
  - 講師 植物案内ボランティア、野草園職員
  - 内容 野草園の木の枝や道具を使って自由に工作
  - 場所 自然学習センター ピロティ周辺 ○参加費 無料(入園料別)
  - 対象 小学生親子 各日先着20組 ○申込み 電話で野草園まで: TEL 023-634-4120
- ◆【野草園から登る瀧山登山】
  - 主催 テレマーク&マウンテンガイド IDEHA ○共催 山形市野草園
  - 日時 8/11(土)《山の日》 8:00～14:00 (受付 7:30～8:00)
  - 場所 野草園から瀧山まで(野草園集合・解散)
  - 内容 山岳ガイドが自然や史跡を案内しながら、野草園から瀧山山頂までを往復
  - 対象 小学校高学年以上 先着10人程度(事前申込み必要)
  - 参加費 3,300円(ガイド料、保険料、入園料込) ※高校生以下は1,000円
  - 持ち物 長袖、長ズボン、雨具、昼食、飲み物など
  - 申込み テレマーク&マウンテンガイド IDEHA ホームページより、参加日の3日前まで  
<http://www.ideha.jp/>
  - 問合せ IDEHA 石沢氏 ☎090-7067-0667
- ◆【山の日記念 センニチコウの花苗プレゼント】
  - 日時 8/11(土) 《山の日》 9:00～無くなり次第終了
  - 場所 園内料金所裏 ○対象 入園者先着100名
- ◆【草木染め教室】
  - 日時 8/11(土) 《山の日》 13:00～15:00
  - 講師 野草園職員
  - 内容 園内の草木を使ってのハンカチの染色実験
  - 場所 自然学習センター ピロティ ○参加費 材料費 1組500円(入園料別)
  - 対象 小学生親子先着10組 ○服装 汚れてもいい服装
  - 申込み 電話で野草園まで: TEL 023-634-4120

## ★★★ 8月初旬・中旬に見られる植物 ★★★



### ヒオウギ（アヤメ科）

山地の原野に生える多年草です。葉はやや白っぽく見え、広い剣状で扇形に並びます。夏に茎が何度も枝分かれし、枝の先に花をつけます。花被片は6個で水平に開き、楕円状でへら形、黄赤色で内側に濃い暗紅点が多くあります。葉の並び方が檜扇に似ていることが、名前の由来です。



### ルリタマアザミ（キク科）

地中海沿岸～西アジアを中心に約120種類が分布する二年草、又は、多年草です。草丈は1m前後になります。葉は長楕円形で深く切れ込みが入り、フチにトゲがあり、アザミの葉に似ています。直径4cm～5cmの淡いブルー、もしくは白色の小さな花がまとまって咲き、球形（頭状花）になります。切り花やドライフラワーに利用されます。



### カワラナデシコ（ナデシコ科）

各地の山野に自生する多年生草本です。葉は対生し、線形または披針形で基部は茎をすこし抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は優美です。秋の七草のひとつに数えられていますが、7月には咲き始めます。河原に生え、子どもを撫でるような気持ちで接したくなるほど美しく可憐な花の様子が、名の由来です。



### オミナエシ（スイカズラ科）

日当たりのよい山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し裂片は狭くまた尖ります。茎は上部で枝分かれし、黄色の小さい花を多数つけます。花が満開になるとその独特なおいで、オミナエシが咲いていることがわかります。秋の七草として有名な植物で、儚げに揺れるその風情には秋風がよく似合います。



### ヤブカンゾウ（ススキノキ科）

野原などに多い多年草です。葉は広線形、鮮緑色で先は下垂しています。若葉はおいしい山菜のひとつです。葉の間から花茎をだして上部に黄赤色の花を数個つけます。雄しべ雌しべは花びらのように変化し、八重咲きに見えます。果実はできませんが、根茎から横につるをだして繁殖します。人の集落近い藪などに生えることが、名の由来です。



### コオニユリ（ユリ科）

日当たりのよい湿り気のある山地に生える多年草です。葉は線状披針形で、葉のわきにオニユリのようにむかご（球根と同じような性質をもつ塊状組織）はつきません。茎の先端に黄赤色の花をつけます。花弁は6個で、上部はそり返り、内側には紫黒色の小点がまばらにあります。花は、オニユリよりも数が少なく、小さめです。



### ユウガギク（キク科）

湿地やあぜに多い多年草です。下部の葉は長楕円状披針形で、先端はとがり、基部はしだいに狭くなり、ふちには欠刻状の大きな鋸歯が見られます。上部の葉は線状披針形です。頭花は径3~3.5cmの淡青紫色。冠毛は1mm以上で長短があります。“柚の香りがする菊”というのが名の由来ですが、実際は匂いを感じられません。



### ピロードトラノオ（ゴマノハグサ科）

茎の先の長い穂に多数の花をつけます。葉の両面にピロードのような軟毛が生えています。葉がピロードのような感触で、花穂の様子が虎の尾に似ているのが、名の由来です。野草園内にはトラノオの名前がついている植物は、オカトラノオ、ヌマトラノオ、トラノオ（別名クガイソウ）があります。



### クサキョウチクトウ（ハナシノブ科）

北アメリカ原産の多年草で、庭に植えられているのを見かけます。葉は対生し時には3枚輪生し披針形です。葉柄はごく短く、上の方ではいくぶん茎を抱くようになります。茎頂に紅紫色の花をつけます。花は下部が細い筒となり、上部は5裂して平らに開き、回旋してひだ状に重なります。キョウチクトウ（木）の花に似ている草であることが、名の由来です。



### リョウブ（リョウブ科）

山林の中に生える落葉小高木で、樹皮が薄片となつてはがれ、はがれたあとは茶褐色でなめらかです。葉は枝先に集まって互生し広い倒披針形です。枝先に小さな白い花を密につけます。木肌がきれいなので、薄片をつけたまま床柱として使われることもあります。昔、若い葉を保存しておき、救荒食物としても使われたこともあるようです。



### レンゲショウマ（キンボウゲ科）

主に本州の太平洋側の深山に生える多年草で、日本特産のひとつです。葉は大形で2～4回3出複葉、小葉は卵形です。茎の上部に淡紫白色の花をまばらに下向きにつけます。花弁状の萼片は多数で楕円形をしており、内側の花弁の先は紫色をしています。花がハスの花に葉がサラシナショウマに似ていることが、名の由来です。



### フシグロセンノウ（ナデシコ科）

山地や林中に生育する多年草です。オレンジ色で径5 cm程の5弁花を平らに開きます。萼は筒状で、先が5つに裂けます。葉は卵形で、対生です。葉の先は尖り、縁には毛が生えています。節の部分が茶色っぽい紫黒色なので「節黒」、「仙翁」は京都の嵯峨仙翁寺というところが作出したことが、名の由来です。



### クルマユリ（ユリ科）

本州中部以北の亜高山帯の草原などに生える多年草です。葉は茎の中央部付近に6～15枚が輪生し、その上部に3～4枚がまばらにつきます。茎の先に長い柄を分枝して、下向きの黄赤色の花をつけます。花びらはせまい披針形で広く基部から開いてそり返ります。葉が放射状についていることを車輪にたとえたのが、名の由来です。



### サワギキョウ（キキョウ科）

日本各地に分布し、山間の湿地に群生します。茎は高さ50～100 cm、太く中空で分枝はしません。全体に無毛で、葉の形は披針形でふちには細かい鋸歯があります。花は、上下の2唇に分かれています。上唇は二裂し横に張り出し、鳥の翼のように見えます。下唇は3裂し前に突き出しています。鳥の頭のように見えるのは雄しべです。

### ツリフネソウ（ツリフネソウ科）

水辺に群生する一年草で、茎は赤みを帯び節がふくらみます。葉は、基部はくさび形、菱状楕円形で先はとがり、縁に鋸歯があります。茎先に数個の紅紫色の花がさがります。距は著しく後ろに突き出て渦巻き状になります。果実は熟すと果皮が裂けて種子を飛ばします。花の姿が花器の釣舟を思わせることが、名の由来です。

